「観音寺日譜」(3)

（京都府乙訓郡大山崎町観音寺所蔵）

——寛延二年日譜①

石井　日出男

本稿は、寛延二年（一七四九）「観音寺日譜」の前半に当たる六月末日までを解読して紹介する。既に紹介済みの延享期のもの二冊には欠落があったが、現在、所在が確認され残存している「日譜」の内で三番目に古いこの寛延二年「日譜」には欠落がなく、したがって、年間を通して記録が判明する最初のものとなる。

さて、延享期の「日譜」にみえる「院家」は、観音寺の第四世等空であった。等空は、寛延三年十一月四日、三三歳で入寂している。[2] したがって、この寛延二年「日譜」に「御隠居」と尊称されている人物が等空であり、「院家」は第五世の泰空に交替していることになる。この年、等空三二歳、泰空二五歳である。[3]

この等空の若年での引退は、日譜の記事中から窺えるごとく、病弱であることに帰因するものと考えられる（「日譜」の後半に「御隠居」の病気についての記事多出）。なお、「日譜」中にはみえないが、観音寺の住持は、隠

居後、「金剛院」を称することになる。

江戸時代における観音寺の歴代住持は、第一世の以空から第一〇世の本空に及ぶ。御室御所の直院家格の処遇を受け、次第官として（権）僧正以上に昇任しうるこの一〇名の住持の内、以空を別格として（大僧正）、その多くの極官は権僧正（贈官を含む）であるが、わずかに第五世の泰空（安永二年（一七七三）十二月八日寂、四九歳）と最後の本空（明治六年（一八七三）八月二十九日寂、六六歳）の二名が正僧正に陞っている。(4) 泰空は、弱冠とも言い得る二五歳で観音寺の住持を勤めていることになるが、その任に耐え得る傑物であったものと思われる。

本稿は、神奈川大学日本常民文化研究所の共同研究及び一九九八・九九・二〇〇〇年度文部省科学研究費補助金基盤研究B・一般二（研究代表者　中島三千男、課題番号一〇四一〇〇八四）の成果の一部である。

なお、神奈川大学日本常民文化研究所の調査を快諾され、伝世の貴重な所蔵文書の公開を決断されて提供して下さるとともに種々のご教示に与った観音寺の井上亮淳氏（種智院大学教授）に厚く御礼申し上げる。

註

（1）表紙の標題に、「寛延二辰年」とあるが、寛延二年は巳年である。後年、表紙をつけ綴じ直した時に書き誤ったものであろう。

（2）（3）（4）「歴代住持」表を参照（拙稿『「観音寺日譜」(1)――延享元年日譜②』、神奈川大学人文学会『人文研究』第一三七集、五八頁、一九九九年九月）。なお、後考を期したいが、歴代住持の入寂年の月日、行年の内には、史料によって異同がある。

「(表紙)寛延二辰(マヽ)年

日次

正月ヨリ 至十二月」

(24.2×17.0)cm

元日

一年始為御礼登山　大工平治

二日

一為御礼登山　中西右馬

一淀過書座年寄斉藤小八郎方ゟ使来ル

一為御礼登山　古市徳王寺

三日

一高規(徳)永井近江守殿ゟ御使者　牧内藏之丞

四日

一御團拵也

五日晴

一御室、所司、両奉行所江為年礼御出京

御供　養全房
高田幸内
松田藤作
下部権平
雇之物拾壱人

一登山　中西右馬

一登山　中性院
徳王寺

六日晴

一御院家御迎ニ東寺茶屋迄雇之物五人遣ス

一登山　神宮寺

一御帰院　御供観道房養全房
覚城房御供ニ而登山　高田幸内

一年始之為御祝儀登山　　松田藤作
一為御祝儀登山　　下部権平
一年始之為御礼、小泉内匠方ゟ印物、使ニ而来　　雇之物八人
一太元明王中法開白　　栗栖野庄屋　善助

七日晴

一年始之為御祝儀登山　　淀廿石年寄　宮田弥五郎右衛門
一登山　　山下太郎右衛門

八日天氣

一太元明王中法結願　　神足　三宅伊兵衛
一仙臺御屋敷江御使　　森嶋与十郎
一京都丁子屋庄左衛門方ゟ中法之菓子持使来ル　　小泉右近　　善助

一登山　　権介兄 藤助

九日晴

一高規(徳)永井近江守殿江使僧　　真龍房 供八助

一年始之為御礼登山　　伏見 吉野屋与左衛門

一登山　中西右馬　　森嶋与十郎

一退山

十日雲

一淀伏見江為年礼使僧指出　　恵海房 供善介

尤伏見ゟ上森(林)又兵衛江善介遣候

一年頭之為御祝儀登山　　多門院

一登山　　中西右馬

一普賢延命中法開白

一為御祝儀登山　　油屋 弥兵衛

十一日

一年始之為御祝儀登山　丸屋　五兵衛

一藤村佐渡方ゟ年始之為御祝儀使来　一宿

十二日晴

一普賢延命中法御結願

一仙臺御屋敷江御使　権助

一退山　中性院　徳王寺　丸屋　五兵衛

一年始之為御礼登山　紙屋　庄左衛門　丸屋　与十郎

十三日雨天、今日せち致候

一登山　中西右馬子息豊之介

一登山　河内や　平八　大工　平治　たゝミや　長右衛門、其外出入之物共呼申候　高田幸内

一淀出火有之、過書座年寄中江火事為見廻、使者遣候　上大子村　才賀屋喜八

一年始之為御祝儀登山

十四日晴、あん拵也

一自分用ニ而出京　　真龍房

一退山　　観道房　覚城房

一退山　　紙屋庄助　丸屋与十郎

一為御礼登山　屋ね屋清左衛門子息

一年始之為御祝儀、田中伊賀ゟ使来

一下帆　三宅平兵衛同道ニ而退山、才賀屋喜八

一菅沼織部正殿江伏見為年礼、使僧遣候

為御挨拶使来

一斉藤小八郎　山鹿太郎右衛門　坪内太左衛門方ゟ火事見廻之為礼、使参ル

十五日甲子

一御團拵也

一年始之為御祝儀登山　　東寺西之坊

一為年礼登山　　佛師印覚

一為御礼登山　　服部村権左衛門

十六日

一帰山　大坂ゟ帰山　三宅平兵衛　真龍房

一上京　興松寺供権介

登掛ニ　歓(勧)修寺宮様江為年礼使僧被勤候

一登山　中西右馬

一年始之為御祝儀登山　仙(長)山房

十七日

一八幡参詣　長山房　真龍房

一京都ゟ罷帰ル　権介

十八日晴天

一禁裏様　仙洞様江例年之通御礼

仁保嶋海苔　壱箱　献上　使僧　養全房

長持壱棹、人弐人

一退山　長山房

一真龍房国元江罷被下候　壹屋伊右衛門

一年始之為御祝儀登山　興松寺

一京都より帰山　養全房

十九日

一年頭之為御祝儀登山　蛭屋善兵衛

香具屋九郎兵衛

同左兵衛

一八幡江御参詣、御隠居様　御供明瑞房

養全房

下部権平

神宮寺

一退山　龍泰房

八幡参詣之序

一登山　六波羅普門院

一年始為御祝儀と登山　津嶋屋庄兵衛

一為窺御機嫌登山　中西右馬

廿日

一退山　六波羅普門院

一年頭之為御祝儀登山　太田七郎兵衛枠宮田太右衛門

廿一日

一要用ニ付出京　友松庵

一年始為御祝儀登山　長圓房

一登山　下部善介　左官吉兵衛

中西右馬

廿二日雲

一年始之為御祝儀登山　山崎屋茂兵衛

一杉浦三郎兵衛方ゟ御守札頂戴ニ使来ル

廿三日雨

一年始之為御祝儀登山　松田新藏

一仙臺御屋敷江御札　使　権平

廿四日

一御隙頂戴、京都親宅江参　後藤春可

一退山　山崎屋　茂兵衛

一京都ゟ帰山　友松庵　澄圓房　供善介

廿五日雨

一為年礼登山　松田庄蔵

廿六日

一京都ゟ帰山　後藤春可

一登山　山崎屋　茂兵衛

廿七日

一退山　松田庄蔵

一御隠居様御下帆　御供　養全房

一友松庵御同道ニ而鳥養江参　下部権平
一為窺御機嫌登山　中西右馬

廿八日晴天

一為年礼、伏見江参　松田藤作
一退山　山崎屋茂兵衛
一為年礼登山　八幡寶藏坊
一為御祝儀登山　佐野智明房

廿九日晴

一為御祝儀登山　八幡塔之坊
一森嶋与十郎方ゟ使来ル

晦日雨

一登山　中西右馬

二月朔日

一帰山　　松田藤作

二日晴

一上林又兵衛殿江御札為持使遣ス　　権介

一退山　　佐野智明房

三日天氣

一稲荷参詣、即日帰山　　住観房

一為年礼、在所江参　　高田幸内

一登山　　恵海房

四日雨天

一無事

五日日和

一京都仙臺御屋敷ゟ御使来　　平井大八郎

一御院家様、八幡江御参詣　　御供

一為年始之御祝儀登山　　恵海房
　　澄圓房
　　松田藤作
　　下部善介
　　淀廿石船年寄
　　木下小兵衛

六日晴天

一登山
一年頭之為御祝儀、奈良屋権右衛門方ゟ使来　　中西右馬

七日晴天

一仙臺御屋敷江御使
一紙屋庄左衛門方ゟ使来ル　　権介

八日晴

一明九日、京都御城番巡見ニ被参候儀、山田弥惣右衛門方ゟ為知来
一帰山　　高田幸内

九日雨天

一勢多住人　聖天江被致參詣候

為御酒料、白銀壱包、名者知レ不申候

十日晴天

一冨田江御酒取　善助

一出京　興松寺

一登山、一宿ニ而退山　隣香房

十一日天氣

一此表御巡見　柳沢民部少輔

十二日天氣

一為年始之御祝儀登山　西田源藏

一此表御巡見　米津越中守

十三日日和

一京都町使　　権介
一八幡江参詣　　住観房
　　春可
　　久左
一鳥養ゟ帰山　　友松庵
　樋野源右衛門忰可介
一京都より帰山　　興松寺

十四日晴

一大聖院ゟ書状等持、伏見丸屋五兵衛方ゟ使来　　中西右馬介
一登山

十五日日和

一為年始之御祝儀登山　　村上勘兵衛
一東福寺江参詣　　明瑞房
一登山　　山崎屋茂兵衛

十六日天氣

一為御見廻、品田久兵衛方ゟ使来ル　　中西右馬

一登山

一権平義此間ゟ病氣ニ付、大坂ゟ加籠(駕)ニ而罷帰候、権平送、市介參候

一門法寺、権平病氣ニ付登山

十七日晴

一御隠居様大坂ゟ御帰山　　御供養全房　下部庄介　市介　庄助

一退山

一退山　　山崎屋茂兵衛

十八日日暮ゟ雨

一為年頭之御祝儀、登山　　乗物屋源右衛門

十九日ひる迄雨

一仙臺御屋敷江御使　　八助

一但馬江入湯　住観房、権介國元へ參候
一為伺御機嫌、登山　　中西右馬
一摂刄西之宮治兵衛と申者の御祈祷御願參ル、願主吉田善八　　一宿

廿日日和

一仙臺御屋敷ゟ御使　　安田平藏
一海老屋喜兵衛方ゟ使来ル

廿一日雨天

一北山藤本茂七方ゟ為年始之御祝儀、使来ル

廿二日天氣

一下帆　　三宅平兵衛

廿三日日和

一仙臺御屋敷江御使　　善介
一上京　　友松庵

一登山　　日州 観識房

一為御見廻登山　　古市 徳王寺 観識房

廿四日雨天

一無事

廿五日天氣

一退山　　泰音房

一為伺御機嫌、登山　　中西右馬

一大坂平兵衛方迄人遣ス　　八助

廿六日晴天

一山科江参ル　　高田幸内

一為伺御機嫌、神足伊兵衛方ゟ使来

一大坂ゟ帰山　　三宅平兵衛 供 八助

廿七日天氣

一勧修寺宮様ゟ御使来　友松庵

一京都ゟ帰山　供善介

一登山　中西右馬

廿八日暮ゟ雨

一無事

廿九日雨天

一無事

三月朔日天氣

一節句之為御祝儀、登山　古市徳王寺

一山田永達病氣ニ付、為見廻使僧　養全房

一節句之御祝儀として中西右馬方ゟ使来　供八助

一冨田江御酒取　関助

一帰山　高田幸内

二日晴天

一無事

三日晴天

一仙臺御屋敷江御使　善助

一節句之為御祝儀、登山　中西右馬

四日天氣

一出京　友松庵

五日日和

一為伺御機嫌、登山　中西右馬

一京都ゟ帰山　友松庵

六日雨天

一嵯峨江才木求参ル　三宅平兵衛

一勝尾寺江御参詣、御院家様　御供長圓房

七日天氣

一登山　高田幸内　下部藤介

八日晴天

一御院家様御帰山　御供　長圓房　高田幸内　下部藤助

九日晴天

一為年礼登山　東寺　西之坊

一登山

一為伺御機嫌、登山

一裝束為御借用、東寺西之坊ゟ使来

一正親町様ゟ為御尋、桜井民部登山

絵師　洞雪

古市　徳王寺

丸屋　与十郎

十日日和

一出京　興松寺供　関介

一退山　丸屋与十郎

一善峯江御参詣、御隠居様　徳王寺

御同道　御供　松田藤作

一但馬ゟ罷帰ル　下部権平

権助

十一日雨天

一無事

十二日天氣

一退山　徳王寺

一登山　中西右馬

一帰山　興松寺

十三日日和

一為見廻登山　　真福寺隠居 日恵　観道房

十四日雨天

一摂刄西之宮ゟ御祈祷願参　　打出村 治兵衛一宿

十五日天氣

一退山　　真福寺隠居 日恵　観道房

甲子十六日晴天

一京都町使　　権平

一冨田江御酒取　　権介

一登山　　多門院

十七日雨天　　中西右馬

一味噌つき

十八日

一仙臺御屋敷へ御札使　八助

一島養江參ル　友松庵

久左御暇被下、島養ゟ権介付為送候　樋野藤介

一大坂へ下掛ニ登山　供　権介

一御借用之裝束持、東寺西坊ゟ使来　肥前神代　今村孫十

十九日天氣

一仙臺御屋敷ゟ御使来　加藤牧之丞

一長池へ參　泰レ龍房

一大坂鍋嶋屋敷江為使僧罷下ル　興松寺　供善介

廿日天氣

一湯嶋ゟ帰山　住観房

廿一日晴天

一大坂ゟ罷帰ル　興松寺

一合躰大師江御參詣　御隠居様　御供　善介　教雲房

一在所江參ル　養全房

一河内ゟ帰ル　三宅平兵衛

廿二日日和

一仙臺御屋敷江御札使　権介

一伊勢參宮　権平

一為窺御機嫌、登山　明瑞房　松田藤作　中西右馬

廿三日晴天

一御見廻として登さん　貞松（オかや）

即日退山　妙春

一帰山　三宅平兵衛

一為御見廻、登山　江戸三田　大聖院

廿四日天氣

一無事

廿五日晴天

一出京　興松寺

供　八助

一退さん　江戸　大聖院

一為御見舞、登山　仙臺　長山房

廿六日雨天

一登山　中西右馬

一同　龍泰房

廿七日日和

一退山　仙臺 長山房

一京都ゟ帰山　興松寺 供八助

一為御見廻、高田甚兵衛ゟ使

廿八日晴天

一長池江参ル　龍泰房

一登山　古市 徳王寺

一登山　鳥養村 藤兵衛

一在所江参ル　高田幸内

廿九日晴天

一伊勢参宮帰山　明瑞房

一退山　古市 松田藤作 徳王寺

四月朔日晴天

一京都町使　　権助

一私用ニ而出京　　養全房

一登山　　中西右馬

一登山　　北山観道房

一大坂狩野喜悦ゟ之添状有之、仙山と申僧登山、一宿也

二日晴

一京都より帰山　　養全房

三日雨天

一登山　　中西右馬

四日晴天

一冨田江御酒取　　藤介

一鳥養ゟ帰山　　友松庵

一帰山　　高田幸内

五日

一出京　興松寺　供関介

一登山　祝園神宮寺

一大坂へ下掛、登山　森田庄左衛門

六日晴

一京都ゟ帰寺　興松寺　供関介

七日晴天

一退山　祝園神宮寺

一在所江参ル　高田幸内

一登山　小泉内匠

八日晴天

一上京　友松庵

同道ニ而退山　　観道房

一為年始之御祝儀、登山　　泉屋庄兵衛

九日雨天

一登山　　中西右馬

十日天氣

一上京　　興松寺供善介

一為年始之御祝儀、登山　　八百屋庄兵衛

十一日晴天

一京都ゟ帰院　　興松寺下部善介

十二日晴天

一登山　　肥前其鏡房

一登山　西田源藏
一同　中西右馬
一京都より帰山　友松庵
一蛭子屋善兵衛ゟ中法御札箱持使、一宿　高田幸内
一在所ゟ帰山

十三日雨天

一登山　丸屋五兵衛
一御隙頂戴退山　高田幸内

十四日天氣

一無事

十五日日和

一為御見廻、登山　松田庄藏
一登山　古市徳王寺

十六日天氣

一冨田江御酒取　　権介

十七日晴天

一登山　　秋田了安

同道ニ而登山　　高橋丈助

十八日天氣

一退山　　秋田了安老

十九日

一御隠居御不状ニ付御出京、友松庵同道　御供後藤春可下部権介

御駕籠之雇人弐人

一肥前恵海房登山、即日退峯、大坂生玉南之房寄宿

一昇山、日向恵海房

一御清物使　　八助

廿日

廿一日不勝之天氣

一御團拵

一昇山、中西右馬

廿二日

一御清物使　　権平

廿三日

一登山、東寺西之坊、即晩下帆也

廿四日天氣

一御帰院、御隠居、同道友松庵　観道房

御供　春　可

下部権介

一仙臺御屋敷江御使　　善介

廿五日日和

一退山　龍泰房

廿六日雨天

一登山　中西右馬
一登山　祝園神宮寺　龍泰房

廿七日天氣

一急用有之退山
一上京
即日帰山
一冨田江御酒取
一登山
一伏見江参
一登山

祝園神宮寺
興松寺供八助
使　関介
古市徳王寺
北野覚城房
三宅平兵衛
秋田了安

一同　　高田幸内

廿八日雨

一幸内御暇被下候ニ付、為御礼、登山　　高田甚兵衛

一中法ニ付登山　　八幡塔之坊

一登山　　丸屋与十郎

廿九日天氣

一普賢延命中法開白

一登山　　西田源蔵

一登山　　勾坂定部左衛門

右者播州姫路之城主、上野江引越され候ニ仍而、私山下罷通候ニ付、為御尋参登、

但シ客寮ニて吸物ニ酒抔振舞

晦日

一無事

五月朔日天氣

一中法御結願　善介

一仙臺御屋敷江御使　八幡塔之坊

一退山　龍泰房

一退山　西田源蔵

一退山　徳王寺

二日晴

一退山　観道房

一丸屋五兵衛方ゟがま莚為持使　丸屋与十郎

三日晴天

一退山　高田幸内

一難波江入湯ニ参ル　友松庵

一薩摩屋敷江遣シ候筆、井関与一右衛門方江頼遣ス

一時節為御見廻、登山　　冨田品田久兵衛

四日天氣

一賀野意三方へ御薬取遣并仙臺之御留守居江例之通筆遣ス

一退山　　北野覚城房

一江戸江下候莚包、大坂才賀屋七兵衛方へ頼遣ス

但シ寶泉庵様へ下候本尊也

五日昼過ゟ雨

一仙臺御屋敷江御使　　権助

一例之通、節句之御祝詞、客殿ニ而有之候

一節句之為御祝儀、登山　　中西右馬

一伏見へ要用ニ付参ル　　三宅平兵衛

一私用ニ而出京　　高橋丈助

六日天氣

一退山　　高橋丈助

同道ニ而初而登山　　丈助親父　高橋甚左衛門

七日天氣

一高規(機)永井近江守殿(江)　使僧　　養全房

宮田冨田へも例之通、御札團等遣ス　　供八介

一冨田品田久兵衛方ゟ使　　高田幸内

一登山

八日

一御隠居御不快ニ付、為御養生、御出京、御供　高田幸内　後藤春可　下部関介

御駕籠雇人弐人以上三人やとひ

一宇治伏見御札、當月分相くはる　　善介

九日

一鳥飼養愚院登山、興松寺留主居藤兵衛同道、一宿

十日

一養愚院藤兵衛退院

一出京、御役者、旅宿、仙臺用具遣ス　八助

十日
一過ル八日下帆、今日帰山、寺用　三宅平兵衛

十一日

一退院、夜前ゟ登山、恵海房

一長池光明寺観識房次第物、役者迄被申越ニ付、即恵海房退院、夫ゟ長池江被参ニ付、相頼用立申候

十二日湿雨

一京旅宿割木炭こつは(木端)、馬ニ而差上ス、丸屋喜八迄

十三日

一帰山、御役者

十四日

一御團拵

十五日

一京都旅宿使、御祈祷之菓子取ニ遣ス、一宿

一大坂長堀清兵衛丁泉屋伊右衛門方ヘ難波湯治所友松庵方ヘ差下候書状差遣ス

十六日

一帰山、権平

一登山、山崎屋茂兵衛

十七日

一京都御影堂常阿弥、伺御機嫌として登山、一宿

一甲子ニ付、例として中西氏相招

十八日

一禁裏御所　仙洞御所江當月之御札并枇杷献上

御使僧、役者

一御清物使、役者供、御札使兼而関助

権平

十九日

一京都江飯米野菜等為持遣ス　善助

一為御見廻登山、知明房、一宿

一帰山、役者

一難波ゟ友松庵帰山

廿日

一退山、知明房

一出京、友松庵、下部八助

廿一日

一伏見西田源蔵方ゟ友松庵江紙封之箱物壱、書状弐封、日州ゟ到来、即日向屋敷ゟ相届候由ニ而候

廿二日

廿三日

一御清物使并旅宿用相済　　権平

廿四日

廿五日

一例之通、當月分為御初穂金子百疋

永井近江守殿ゟ以御使者被相送候

一冨田品田久兵衛ゟ例年之通、當月之御札頂戴之為、御初尾銀子壱封使来ル　御使者　新恵小右衛門

一京松原傘屋、傘の代銀受取ニ来、節季一所ニ可相拂由ニて差戻す

廿六日雨てん

一淀過書座船年寄中ゟ例之通、五月分御初穂差上ル

使之者下役人半兵衛、いつものことく酒肴弐種位ニ而相振舞

廿七日

一摂刄山本坂上太左衛門臨時祈祷相頼ニ来、即御札御供物遣ス

一養全房、京都御隠居旅宿江私ニ被見舞出京

廿八日

一於京都丸山、仙臺屋敷留主居役人中相招ニ付、役者出京

廿九日

一役者連れ被参候下男善介斗(社)帰山

六月朔日

一中性院不快如何不承ニ付、品物を以て見舞差遣申候、少々快方と申来候　使　八介

一帰山役者

二日

一登山、山崎屋茂兵衛

三日

一山ヶ下出入之喜兵衛大病ニ付、人参拝領いたし度由、治兵衛登山、即人参三分差遣シ申候

四日

一出京、長圓房、氏神之祭事ニ付関介附遣ス
旅宿飯米等為持遣り候
一紙屋ゟ祭りの祝儀来ル

五日

一喜兵衛親病氣段快方之由を申、人参之一礼ニ参ル

六日

一京都旅宿へ用事有之御状為持遣ス、追て米麦抔遣り申候

七日

一登山、為暑中御見舞　松田将蔵

八日

一御院家京都御隠居旅宿へ為御見舞御出京、御供松田藤作、下部藤介、紙屋庄助方ニ而一宿被成候

九日

一御院家御帰山

一帰院、長圓房、御供ニ而

十日

一宝庫虫干初、中西右馬、松田将藏手傳

一大坂薩刄屋敷留守居金方両家へ例之通暑中為見舞、引飯弐袋、書状壱封宛指送ス、吹田屋与一右衛門方迄相頼申候ニ付、廣瀬濱平八方へ差出

十一日

一御院家御風邪ニ付、門法寺薬御服用被成候

十二日

一門法寺見舞、薬調合

一江戸小濱民部殿、稲富喜三郎殿、上林又兵衛殿、大坂泉屋吉左衛門方へ之書状、丸屋五兵衛方へ相頼

一退散　　十三日　　松田将蔵

十四日

一御室御所へ暑中伺御機嫌として素麺一箱、旅宿迄差出

一伊達遠江守殿へ暑中見舞書状、黒田半四良方迄相頼遣ス

一鍋嶋弥平左衛門殿へ暑中見舞之書状、京都鍋嶋屋敷留守居衆迄相頼

右何れも丈(使)関助也

一吹田屋与一右衛門方ニ一両年以前奉公いたし候下部男一宿之願ひ申候得共、不審成者と相見へ申ニ付、即座ニ差帰ス

十五日

一（無記入）

十六日

一勧修寺宮様へ例之通暑中伺御機嫌として、使者を以、坊官衆迄、素麺壱箱御状相添差上ル、取次柏原安之進、使者松田藤作　下部藤介

一淀過書座船役人暑中為見舞、例之通、素麺為持参、善左衛門　小八

一東照宮板ふき今日成就、職人不残退山、為祝儀、頭梁清左衛門方へ白銀壱両、酢(カ)

四人之宛前として遣ス　一帰山、友松庵

一義観房、時節見舞被申候

一上太子喜八、暑中之為見舞

十七日

一京都山崎や茂兵衛ゟ暑中ニ付、真桑瓜十ヲ幸便ニ而差上ル

十八日

一観音会式、例之通、一山衆僧相集法事有之

十九日　炎天

一御清物使并旅宿用相済　使　権平

一畫讃物等於客殿虫干

一冨田和泉屋久兵衛妻男子安産之由、態々使を以申来候

廿日

一飯米拾石相求、狐濱ゟ運送ス

廿一日

一御清物使、善助

一東寺秋田了安老ゟ暑中見舞として使来

一御隠居御勝不被成候ニ付、為伺容子、役者出京

一八幡豊藏坊へ暑中見舞、使僧遣し申候

住観房、下部関介

廿二日

一於京都、御隠居醫師山腰道作老ニ相替

廿三日

一京都野崎内藏之允子息時節相尋、且明日常春房一周忌ニ付病知旁登山

一鳥飼西之村中小路丈八ゟ平兵衛方へ、暑中見舞として、西瓜弐ッ、披露致呉候様

と書状ニ而申来ル

廿四日

一鳥飼藤兵衛、暑中見舞来ル

一春レ常房一周忌ニ付、法事有之

廿五日

一御隠居為看病、役者出京

一友松庵鳥飼ヘ被往候、藤兵衛同道ニ而退院

一松村三吾ゟ觸書、山田弥三右衛門ゟ日暮到来ス

廿六日

一東寺鏡智房、暑中見舞ニ登山、即日帰

一伏見丸屋ゟ上林又兵衛殿ゟ之茶箱為持来ル

廿七日

一松井村中性院ゟ暑中見舞として使来ル

たいすう米弐升、御團少〻、前方ゟ懇望ニ付遣申也

一奈良漬仕込ニ付、冨田ヘ酒之糟取ニ遣ス

使藤介

廿八日

一登山、神宮寺、一宿

廿九日

一為御見舞登山、中西右馬

晦日

（無記入）